

20110310_銀座農業政策塾_議事録

「日本農業のグランドデザインと TPP」

日 時：2011 年 3 月 10 日（木）19:00－21:00

場 所：東京・銀座 銀座会議室

テーマ：「日本農業のグランドデザインと TPP」

発表者：蔦谷栄一氏（農林中金総合研究所特別理事）

参加者：参加者 40 人（発表者除く）

（農業生産法人役員、農家、財務コンサルタント、シンクタンク研究員、マスコミ、
会社員、公務員、NPO 法人理事長、大学生、税理士、公認会計士、行政書士、
司法書士など）

塾長から開会挨拶、銀座農業政策塾の趣旨、今回ミーティング趣旨

発表：

1、二重のすれ違いと幻想

- ① 一般経済 vs 農業（農業は 24 作業部会の中の一つにすぎない）
- ② 農業（産業）vs 食料自給率、食料安全保障、多面的機能
- ③ 「平成の開国」＝自由貿易に対する幻想
- ④ 早期加入で日本に有利なルールづくり＝過度な楽観論

2、TPP 加入問題は“この国のかたち”の選択

- ① 自由化の度合い：WTO<FTA・EPA<TPP
- ② 重視：東アジア共同体（ASEAN+6）
- ③ 利益：長期的利益 or 目先の利益？
- ④ 通商国家・貿易立国 or 内需主導型国家？

3、困難な TPP と農業の両立

- ① 土地利用型農業は甚大な影響
- ② 所得補てんは財源的に限界あり
- ③ 必至の食料自給率低下と困難な食料安全保障
- ④ 多面的機能の喪失、農村コミュニティの崩壊
- ⑤ 日本の基層文化の喪失

4、基調変化する農業情勢

- ① 食料需給逼迫、穀物価格高騰
- ② （日本）人口減少時代→水田のさらなる余剰化
- ③ ピークオイル
- ④ 肥料原料の枯渇

⑤ 水、CO2、生物多様性

5、日本農業の方向性

- ① 食料安全保障＝地域農業による農地保全
- ② 地産地消、第6次産業・農商工連携
- ③ 安全・安心、環境負荷低減
- ④ おいしさ、高品質、差別化一過地適作
- ⑤ 多様な担い手による多様な農業
- ⑥ 農村コミュニティの再生

6、日本農業のグランドデザイン（主なポイント）

- ① 自覚的消費者の獲得、CSAの形成
- ② 畜産利用による土地利用型農業（第一段階：飼料イネ、飼料米、第二段階：放牧）
- ③ 集落営農の普及と法人化そして「社会的協同経営体」としての役割発揮
- ④ 二つの担い手（土地利用型農業＋高度技術集約型農業）＋自給的・市民参画型農業（→国民皆農（日本版ダーチャ））
- ⑤ 有機農業等持続的循環型農業の徹底
- ⑥ 都市農業の振興と都市農地の維持
- ⑦ 都市と農村との交流促進
- ⑧ 経営マインド（経営管理、付加価値造成、販売力等）の醸成と情報発信
- ⑨ 景観と生物多様性

このほか、貿易立国「韓国」の事例について（経過、産業実態、農業実態）

以上